

## 第6節 歯科保健医療対策

### 【現状と課題】

#### 現 状

- 1 かかりつけ歯科医の推進
  - 平成24年度愛知県生活習慣関連調査によると、かかりつけ歯科医を持つ者の割合は77.5%であり、平成21年度調査より増えています。
- 2 歯科医療体制
  - 訪問歯科診療の実施率は29.2%で、県(34.9%)よりも低い実施率です。(表2-6-1)
  - 歯科医師による居宅療養管理指導の実施率は、8.5%で、県(10.5%)よりも低い実施率です。(表2-6-1)
  - 口腔ケアの実践が気道感染予防につながるなど、口腔ケアの重要性について、治療を受ける側と治療を行う側の認識が十分でない状況にあります。
  - 障害児・者対象に一宮市口腔衛生センターで歯科治療や指導が実施されています。
  - 社会福祉施設等の通所者・入所者の口腔内状況は、歯科医師会の活動やサポートにより改善されていますが、精神疾患を有する者等一部においては対応が十分でない状況です。
- 3 病診連携、診診連携の推進
  - 全身疾患を有する患者の歯科診療ではかかりつけ医との連携が不可欠です。
  - 「歯科診療所→病院」の連携の実施率は82.3%、「歯科診療所→診療所・歯科診療所」の実施率は23.8%で、ともに県よりも高い状況です。(表2-6-1)
  - 一宮市歯科医師会、稲沢市歯科医師会では、「尾張西部医療圏歯科病診連携運営協議会」を設置し、歯科口腔外科を有する一宮市民病院、総合大雄会病院及び稲沢市民病院と診療所の紹介システムが円滑に稼働するよう体制整備をしています。
  - 平成21年度愛知県歯科医療機能連携実態調査によると、2型糖尿病の教育入院、外来患者糖尿病教室を実施している病院のうち、教育プログラムの中に「歯・歯周病」に関する内容を導入している病院は3か所です。
  - 一宮市歯科医師会、稲沢市歯科医師会では、糖尿病の合併症としての歯周病の重症化

#### 課 題

- 全身疾患と歯科疾患との関係を住民に広く周知し、かかりつけ歯科医機能について、十分啓発し、かかりつけ歯科医を持つことを推奨していく必要があります。
- 在宅療養児・者への訪問歯科診療及び居宅療養管理指導の充実した展開ができるよう体制の整備を図るとともに、住民に対し、その内容、有効性、必要性、利用方法等を広く周知していく必要があります。
- 介護予防も念頭においた口腔ケアの重要性を広く啓発し、口腔ケアサービス体制を整備する必要があります。
- 関係機関は、病診連携（医科、歯科の診診連携も含む）の状況把握を的確に行い、さらに推進していく必要があります。
- 糖尿病と歯周病の関係を踏まえ、糖尿病教育プログラムの中に歯・歯周病に関する内容を充実させる必要があります。
- 糖尿病治療及び予防に関する多職種との情報の共有化と相互理解を深めていく必要があ

予防のための研修を開催しています。糖尿病と歯周病に関する指導を推進している歯科診療所は、(一社)愛知県歯科医師会ホームページ

<http://www.aichi8020.net/pdf/tounyoubyou.pdf>に掲載されています。

#### 4 ライフステージに応じた歯科保健対策

- 地域住民が8020を達成した健康な生活が送れるよう、乳幼児期から成人期までライフステージに応じた歯科保健事業が実施されています。
- むし歯経験者率は、平成24年度が1歳6か月児1.3%、3歳児10.4%、中学1年生31.9%であり、乳幼児期、学齢期のむし歯経験者は年々減少傾向にあります。  
また、近年虐待(ネグレクト)による特定な小児にむし歯多発の傾向が見られ、未治療のまま放置されている事例も少なくありません。
- 乳幼児期の乳歯むし歯対策としての2歳児歯科健診が充実されています。
- 各市でフッ化物歯面塗布事業を実施しています。
- フッ化物洗口は、小学校では7校、幼稚園・保育園では65園で実施されています。(平成25年3月末現在)
- 妊産婦に対する歯科保健対策を歯周病対策に重点をおきながら歯科診療所や保健センターにおいて実施しています。
- 歯周病対策として、各市では節目歯科健康診査や生活習慣と連動させた健康教育・保健指導を実施しています。
  
- 職域での歯科健康診査・健康教育は、地区歯科医師会や保健所に対応しています。
- 平成21年愛知県生活習慣関連調査によると、喫煙が歯周病に影響することを知っている住民は、28.4%と十分周知がされていません。
- 高齢期における気道感染予防のための口腔ケアサービス提供体制が十分に整っていません。

#### 5 地域歯科保健情報の把握・管理、人材育成

- 地域の歯科保健データは、保健所で収集・

ります。

- ライフステージごとの関係機関が連携し8020運動を一層推進していく必要があります。
- 乳幼児歯科対策の充実に向けて、関係機関・団体は連携・支援する必要があります。  
また、歯科保健分野においても虐待(ネグレクト)等の早期発見を視野にいれた取り組みが必要です。
- 永久歯のむし歯の減少を図るため、幼稚園・保育所(園)、小学校等におけるフッ化物洗口の推進を図る必要があります。
- 歯周病は若い世代から取り組むことが有効であることから歯周疾患検診の充実と併せて40歳未満の若い世代からの健診体制を強化していく必要があります。
- 地域住民の口腔の健康保持・増進のため、歯科健康診査や健康教育、保健指導の充実を図る必要があります。
- 関係機関と連携して、職域を対象とした歯科保健対策を推進していく必要があります。
- 歯科健康診査受診者の増加を図るため、一般住民に対して「喫煙と歯周病の関係」について知識の普及啓発を図る必要があります。
- 口腔ケアの重要性を広く啓発し、関係者による口腔ケアサービス体制を整備する必要があります。
- 保健所は関係機関が地域の状況を的確に把

分析し、その結果をもとに事業評価して関係機関との情報交換を行っています。

- 保健所は歯科保健事業に従事する歯科専門職や保健・福祉関係者を対象に、地域の歯科保健状況の向上を図るための研修会を開催しています。

握できるよう支援していくことや地域の状況に即した、課題解決のための研修会を企画・立案する必要があります。

【今後の方策】

- あいち歯と口の健康づくり八〇二〇推進条例及び愛知県歯科口腔保健基本計画に基づき、ライフステージに応じた歯と口の健康づくりの総合的な推進に努めます。
- 地域における病診連携、診診連携をより一層推進させるための環境整備を図ります。
- 歯科疾患と糖尿病など生活習慣病との関係及びかかりつけ歯科医の重要性について、関係機関と連携し、地域住民に対する啓発に努めます。
- 訪問歯科診療や居宅療養管理指導など、在宅療養者や障害者等の歯科診療体制や口腔ケアサービス体制の整備を図ります。
- 地域の歯科保健に関する状況を的確に把握し、課題解決に向けた検討や研修を実施します。

表 2-6-1 尾張西部医療圏における歯科診療所の在宅医療サービス、支援等の状況

平成 21 年 12 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日

区 分	診療所数	調査回答 診療所数	訪問診療 実施施設数	居宅療養管理指導		病 診 連 携 実施施設数 診療所→病院	診 診 連 携 実施施設数 診療所→診療所
				歯 科 医 師 実施施設数	歯 科 衛 生 士 実施施設数		
一宮市	163	92	25(27.2%)	7( 7.6%)	7(7.6%)	76(82.6%)	20(21.7%)
稲沢市	54	38	13(34.2%)	4(10.5%)	3(7.9%)	31(81.6%)	11(28.9%)
医療圏計	217	130	38(29.2%)	11( 8.5%)	10(7.7%)	107(82.3%)	31(23.8%)
愛知県	3,656	2,333	815(34.9%)	244(10.5%)	114(4.9%)	1,799(77.1%)	493(21.1%)

資料：平成 21 年度歯科医療機能連携実態調査（愛知県健康福祉部）